

## 第2学年 英語科学習指導案

日時 平成16年9月29日(水)5校時  
学級 2年A組(男子16名、女子14名、計30名)  
場所 2年A組  
指導者 佐々木伸二

1 単元名 Unit 4 Homestay in the United States (NEW HORIZON ENGLISH COURSE 2)

2 単元設定の理由

(1) 教材について

本単元は、アメリカでのホームステイを話題・場面として、ホームステイでの基本的な心構えやホームステイ先でのよくある悩み事を取り扱いながら、コミュニケーションの基本的態度について考えることができる題材である。ホームステイという場面をとおり、コミュニケーションの重要性や異文化へ接する際の注意点などを学習しながら、日本との考え方や生活様式の違いにも触れて生徒に関心を持たせることで、国際理解の情意面を育成する一助にしたい。

また、本単元で扱う文法事項は、have to ~, will, must といった助動詞類である。1年 Unit 10での can、2年 Unit 2 での be going to ~ に続くものであり、will, must については can との用法の共通性があることに触れて理解を促していきたい。いずれも表現の幅を大きく広げられる教材であるだけに、言語活動を多く取り入れて用法を理解させていきたい。

(2) 生徒の実態

5月に行われた進路適性調査の中の「教科のようす」では、得意教科に英語と答えた生徒は、1番目に得意な教科、2番目に得意な教科を併せても皆無であった。この調査結果が物語るように、1学期当初は教師の発問に対する反応も乏しく、英語への抵抗感を強く持っていると感じる場面があった。このような実態を踏まえて、まずは生徒に興味関心を持たせることを第一に考え、授業を進めるように心がけて現在に至っている。先日、学活の授業で行われた「私の特性を見つめよう」という中で、「英語が好き」と答えた生徒が数名いた。徐々にではあるが、英語への興味関心を持つようになってきている状況である。最近の授業では、英語に興味関心がある生徒が雰囲気を作り、周りが引っ張られる形で音読や言語活動などを行っている。本来、活気がある生徒たちであり、のってくると意欲的な活動を行うことができる。また、わからなくて困っている生徒がいると周りが教えてあげる暖かい雰囲気もある。しかしながら、家庭学習が不足がちで授業の雰囲気の良い学力に結びついていないのが現状であり、男子にこの傾向が強い。英語を苦手になっている多くの生徒が「読めない」、「意味がわからない」といった単語レベルの理解不足が大きな原因になっていることが多く、語彙指導、音読指導には改善の余地があり、継続的な指導が必要である。また、活気はあるが長続きしない傾向もあるので「飽きさせない授業展開」を工夫し生徒の意欲喚起を図りながら基礎基本の定着に結びつけていきたい。

3 単元の指導目標

- ・ have to ~, do not have to~ を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。
- ・ will を用いた文の形・意味・用法を理解し、それを用いて簡単な対話ができる。
- ・ must や must not を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。
- ・ ホームステイについて知り、理解を深め、考える。

4 単元の指導・評価計画（授業の中で行う評価項目） [Unit 4 8時間]

	到達目標	主な言語活動	観点別領域の重点領域												評価の場面			
			関・意・態				表現			理解		言語・文化						
			L	S	R	W	S	R	W	L	R	L	S	R		W		
2 (本時1/2)	【Starting Out】 ・ have to~, do not have to~ を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。 ・「ホームステイのガイドブック」を読み、ホームステイについて知り、考える。	・ have to~, do not have to~ を用いて自分自身のことや自分がよく知る事柄についてアドバイスする文を話したり、書いたりする。 ・【本文の内容理解と音読】																・音読練習 ・Listen ・Speak ・学習シート
1	【Dialog】 ・ will を用いた文の形・意味・用法を理解し、それを用いて簡単な対話ができる。	・ will を用いた文を理解し、自分の予定を話したり、書いたりする。 ・【対話文の内容理解と音読】																・音読練習 ・Your Turn ・学習シート
1	【Reading for Com.】 ・ must を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。 ・相談とそれに対する助言を読んで内容を理解する。	・ must を用いた文を理解し、アドバイスする文を話したり、書いたりする。 ・【本文の内容理解と音読】																・音読練習 ・Q & A ・T/F test ・学習シート
1	【Reading for Com.】 ・ must not を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。 ・苦情とそれに対する忠告を読んで内容を理解し、また、本文を参考にして日本に来る外国人の人への簡単な助言・忠告ができる	・ must not を用いた文を理解し、簡単な助言・忠告をする文を話したり、書いたりする。 ・【本文の内容理解と音読】																・音読練習 ・Q & A ・T/F test ・Your Turn ・学習シート
1	Listening Plus 4	学習事項の確認問題																・学習シート
1	Speaking Plus 2	街中で目的地までの徒歩での行き方を尋ねる・教える。																・音読練習 ・学習シート
1	単元テスト																	

( ...授業の中で実際に評価する観点、 ...可能な限り評価する観点 )

5 本時について

(1) 目標

have to~, do not have to~ を用いて自分のことについて表現できる。 (表現の能力)

have to~, do not have to~ を用いた文の形・意味・用法を理解できる。(言語や文化の知識・理解)  
音読練習やパターンプラクティスを意欲的に取り組むことができる。

(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

(2) 本時の指導構想

言語活動は意欲的に行うものの、英語は「難しい」、「面倒くさい」と感じている生徒が多いのが実情である。これは主に語句や表現を暗記することを嫌がることに起因している場合が多いのだが、「英語＝難しい」という固定観念を抱き、興味関心を失い苦手教科になってしまっている生徒もいる。そこで、本時は生徒の意欲喚起を促し、基礎基本の定着を図るために以下の点に留意して授業を展開していきたい。

生徒と教師の interaction をしながら授業を展開することで生徒の意欲喚起を促す。

各活動に“遊び心”を盛り込んだ工夫を施し、飽きさせない活動を行う。

Presentation Practice Production という流れの中で、4領域に渡った構成を工夫しながら基礎基本の定着を図る。

自分のことを英語で表現させ、英語で表現する楽しさ、英語を学ぶ有用性を実感させる。  
 参考文献 平成 16 年度岩手大学教育学部附属中学校研究紀要「確かな学びの創造」

( 3 ) 本時の展開

段階 時間	学 習 内 容	学 習 活 動	評価・留意点
導 入  10 分	1 Greeting 2 Warm Up  3 Review	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Good morning, everyone.</li> <li>・ 既習事項を用いて英問英答する。</li> <li>・ 音読</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 声を出しやすい雰囲気を作れるように配慮する。</li> <li>・ 生徒が意欲的に取り組めるように音読の練習パターンを工夫する。</li> </ul>
展  開   35 分	4 基本文型の提示 Presentation		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒が飽きないようにテンポ良く進める。</li> </ul>
	今日の POINT! have to ~, や do not have to ~ を使って自分のことを表現しよう!		
	学習課題の把握と理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師の英語を聞いて、何を言っているのか類推する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の関心を惹きつけるように留意しながら interaction をしながら進めていく。また、既習事項を盛り込み、図やイラストを使用しイメージが湧きやすいように配慮する。</li> </ul>
	5 Practice 1  Practice 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ パターンプラクティスを行い基本文型を口頭練習する。</li> <li>・ 身近な話題を用いて has to, doesn't have to を導入し、口頭練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 意欲的に活動することができたか。(観察)</li> <li>・ 学習シート</li> </ul>
	6 Production	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習シートにポイントを記入する。</li> <li>・ 簡単な確認問題と Listening を行い理解度を見る。</li> <li>・ have to ~ を使って自己表現させる。</li> </ul>	
終 末 5 分	7 本時のまとめ  8 次時の予告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の活動の自己評価をする。</li> </ul>	学習シート

( 4 ) 本時の具体的評価規準

観 点	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への手立て
関心・意欲・態度	音読練習やパターンプラクティスを大きな声で意欲的に行っている。	音読練習やパターンプラクティスをしっかりと行っている。	生徒のよい部分をピックアップして誉め、励ましながら、意欲を持たせるようにする。
表現の能力	例文以外の文を用いて have to ~ の文を使い、自分の今の状況を表現できる。	例文を参考にし、have to ~ の分を使い自分のことを表現できる。	何についての視点で自分のことを表現できるか支援する。
理解の能力	教師の言う英語を聞き取り正しく理解できる。(Listening 問題 5 問中全問正解)	教師の言う英語を聞き取り概ね理解できる。(Listening 問題 5 問中 3 問正解)	理解しにくい語(句) 表現はゆっくり話す。
言語・文化	have to ~ の文を理解し、自分のことを表現できる。	have to ~ の文を理解し、使うことができる。	have to ~ の文の用法を繰り返し説明し理解させる。